

第二章 「軟式」の全盛時代

大正時代の前半は、軟式の最も盛んな時代であったが、特に四、五、六年は、関東大学の巨剛を連破し覇業をなした。この頃、庭球の普及は驚くべきもので、各地にわたり、上は大学から下は小学生にいたるまで、ラケットを手にしなないものはないほどであった。

しかし、常にリーダー的役割を果たしていた慶応大学は、大正二年に国際的ボールすなわち硬球を他に先がけて採用した。

この頃の試合の状況や練習の模様については、「農友」からの抜粋で転載する。

新設コート

農友三十八号（大正四年三月）から転載

我校の發展に伴れて、從來の道場及び控所が、狹隘を

來し終に、之れが新たにするの要求を生じて來た、然し場狹まな所から、其建設地としてテニスコートを使用する事となつた。そこで我部は第一の要素とも看做すべきコートを、奪はれて仕舞ふたので茲に一頓挫を來した、而して其後本尾ヶ原に——勿論假コートではあつたが——兎に角コートを設けた。併し同所は本校を隔たること遠く、僅かの餘暇を以て演技を爲すに難きと、コートとしての位置が宜しきを得ないので、不便多く殆んど有名無實の悲境に陥つた。故に吾等一同茲に於てか之れが救濟策を計らんものと、本校の附近に其適地を得べく、度々農場と交渉に及んだ、然し時が既に晩秋に入り降霜甚だしくラケットの時期も過ぎ目前の必要も従つて痛切ならざる所から相方共沈黙を保つに至つた。

斯くて世は移り時は過ぎ再び鳥鳴き花匂ひ蝶舞ふの春

が来て、我校又一百有餘の新入生を迎へ我部亦有力なるニューチャンピオンを得るに至つた。茲に於てか吾々又新設コートの交渉を萌し終に議纏りて果樹園の一角に其地を卜し、四月二十三日漸やく新設コートの始めて實現するに至つた。

兩側の小高き所には常磐の緑松コートに滴り、北は黄金の浪打つ稲田に隣り、南は四季花と匂を絶たざる果樹園と境し、其間に白きユニフォームを着けたチャンピオンがラケットを手にして、或は前に或は後にボールを弄するところ恰もエデンの樂園地に天の寵兒が、遊ぶに似て人か鳥か其境を疑ふの感がある、都下幾十の學寮コートを有すると雖も、恐らく斯くの如く自然の美を背景とせるもの幾つかあらん。

夏期練習

庭球の妙技を極めんが爲め、一方好く遊び、好く學べの精神を實現し、以て此夏期休暇を有意味に過さむが爲めに、我部は去る八月二十五日より二週間の夏季練習を開始した。

時將に炎天赫熾として、恰も釜中の思ひあらしめ學友諸子今や遠く故山に歸りて、其れが風光に戀々たるのである。我が選手の好球、且つ愛球の精神や熱烈なる父母の笑顔すらも見ず、黃塵萬丈の巷に止まりて其日の至るを待ち、或る者は郷土を踏むと雖も、邯鄲の夢枕既に數日ならずして都の人となつた、而して期待せる八月二十五日其當日となるや、選手的面々出穂の如く出揃ひぬ。以後天日の照ると曇るとの差別なく、コートに立たざる日はなく、ラケットを握らざる日とはなかつた、而も朝は割引電車で常磐松の夢を破り、夕は日西山に沒せんとし、群鴉茂林の埒に歸る頃迄でも、専心練習に力めた、されば其間降雨多かりしにも拘らず、選手の技術は勿論、攻撃及び防禦の如き動的方面に於ける研究の進歩發達せる事嚙唳として、旭日の昇るが如く今や都下第二流の庭球界に雄飛するを得るも、大に之れが與りて力あるを證明する所である。

對青山學院

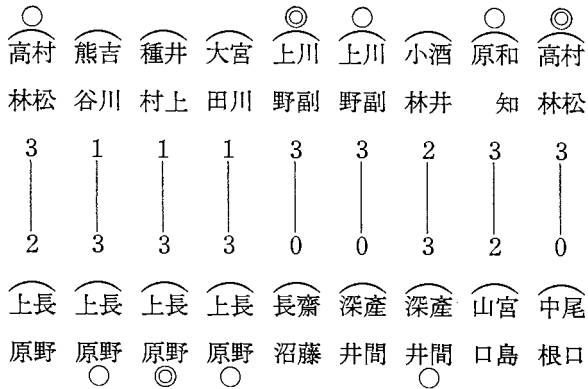
新設コートの期待に心を疲からせし我が選手は、其れ

が新設を目前に見るや、堰水の破れたるが如き勢を以て練習を開始し、寸時と雖も練習に怠りなかつた、斯くて薔が花となり果實と化するに伴ひ、我が選手の技術も熟期に達し、肉踊り血湧き何處か吾等に良き試金石もがなと斯界に睥睨し終に一本の白羽の矢を放つに至つた。濁音を發して飛べる白羽の矢は暫し冲天高く常磐の老松を廻りしが、終に北に方向を取ると見る間もなく、隣に軒を並べる青山學院のアーベ一のタツに當つた。嗚呼廻想せよ、我選手我等知らざれど過去明治の末大正の初めなりし吾れ彼れとラツケツトを共にせし事あつた。然るに吾等未だ天運の薄かりしか終に敵に蹂躪せらるゝ所となり敵のコートに斃れて茲に三春秋、今しも吾等が會稽の恥を雪がんとするの時期が到來したのである。時は之れ青葉若葉の積る五月の二十二日の我等が初陣の功を見よや見よ。

審判官 森部氏 (日蓮宗大學)
本學 青山學院



辰星自ら光を失はざれど旭日東天に昇る時は其の光を奪はるゝが如く彼れ弱きに有らざれど我れ彼れに優れば見三組の優待を残して月桂冠を得た。



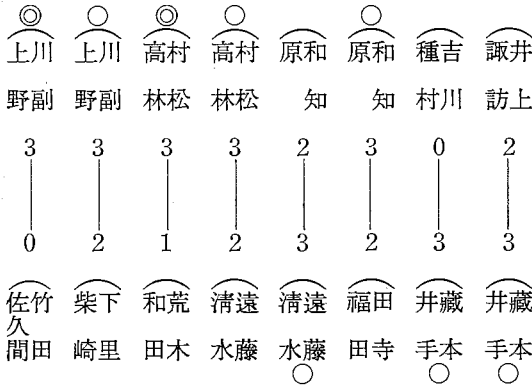
對日蓮宗大學

明くれば同月二十三日新進の豪者として斯界に注目されし日蓮宗大學を我コートに迎へ茲に雌雄を決するに至つて。いでや其日の奮戦を物語らむ。

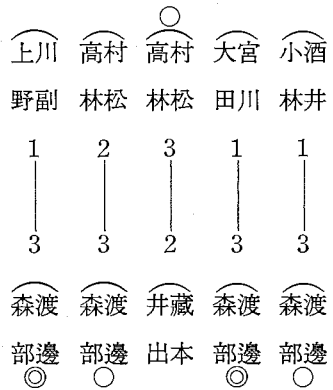
審判官

本學

日蓮



當日は南風稍々強かりしもゲームの進むに伴れて好マツチ日和となつた。ゲーム中村松のシウト最も壯烈を極め流石の荒木も一步譲らざるを得なかつた而も高林のスマツシング機械的に而も正確に打込むので傍觀する者も痛快を絶叫せざるを得ない程氣持が良かった。而して我が村松組は既に敵にツゲームを奪はれしにも拘らず努力奮闘終に其のツゲームを平然として奪返せしが敵の總大將宗祖日蓮の力や借りけん森部が冒險の大膽なるモーションを取つて終に村松組を倒して仕舞ふた。勇將村松組を倒せし渡邊は破竹の勢を以て我が川副組に當つた、併し我も彼に劣らざる豪者なれば共に奮戦苦闘する事多



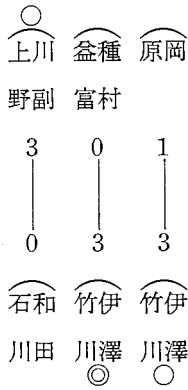
時傍觀者も今は片唾をのみて眼は唯烈球の行衛を追ふのみ、斯くて暫しは雌雄を見えざりしが遂に川副のシウトも森部の奪ふ所となり哀れや吾は斃られ彼れは強者の榮を賜ひぬ。

時は暮春の黄昏早くも四邊を立ち込め入相の鐘遠く又近く。

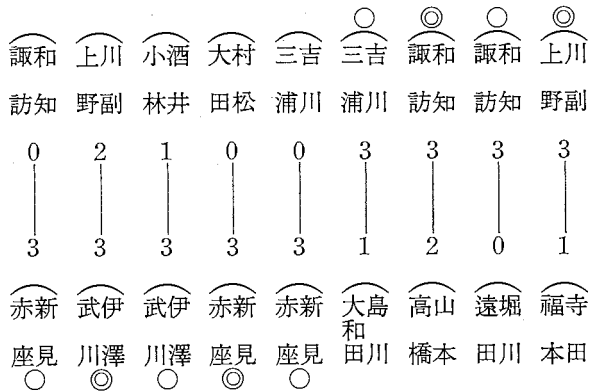
對明治大學

神疲體倦み流汗淋漓三伏の天と雖もラツケットを手にせざる日とてなく朝な夕なに鍛へて鐵腕は之他日如斯マツチに備へんが爲めであつた。天高く馬肥ゆる仲秋十月三日我れ彼れに挑戦して敵方コートに突進した。

審判官 鳥山氏 (明大卒) 井上氏 (農大)
本學 明大



敗軍の將兵を談せずと雖もゲームの初め彼我共に二組宛の優退を出し實力に於て將に差異なきを示せしが我れ未だ斯界に呱呱の聲を擧げしは日尙ほ淺く而も遠征を爲せしは之を以て嚆矢とするものなれば場馴れのせざる所へ彼れが猛烈なる應援の爲に尠からず意氣を削れ無殘や

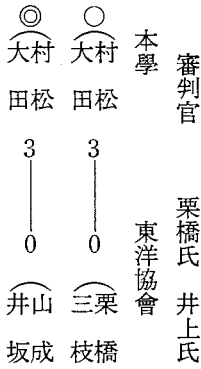


敵の大将の為に悉皆嘗め盡されて仕舞つた。

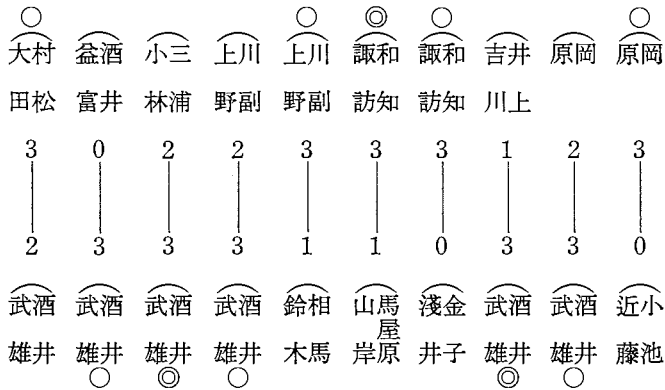
されど都下庭球界の一流に迎へらるる明大と斯るゲームを爲せしは實に我がチームの向上發展を示すもので又之れが結果として彼我の短所長所を知り吾等に裨益する所極めて多大なりしを悦ぶものである而も如斯ゲームの回数を重ねるに従ひ選手のモーシヨンが完備し沈着に傾きしは之れが大なる賜である。

對東洋協會

負くるは勝つの基だ我れ先に明大日蓮に敗れしと雖も益する所尠くなかつた。而も我意を強ふするもの多く急遽翌四日午後一時を期して帝都の北方茗荷谷に位置せる東洋協會と其コートに於て試合の幕が切落さるゝことゝなつた。



敵は副將を先陣として陣頭に立たしめ將に我が計を破らんと企つた。然れども我れ亦早くも之れを推意して豪膽なる村松組を配した。されば彼れ副將と雖も我村松組



の爲めに脆くも倒さるゝ所となつた。次で山成組も當るが早いか前者と共に枕を並べるの悲境に陥り終に我に優退せしめた。岡組は小池組を零敗せしめ酒井組と苦戦した酒井の唯一の武器たるロビングは痛く我れを苦しめた。ゲームツォールにて最後の二戦にジウスを繰返す事十度！ 一球一打選手は勿論傍觀者彌次すら沈黙して手に汗をした終に薄運なる岡組は酒井組に倒さるゝ所となり井上組之れに代つて奮戦した。然れども狂猛なる酒井の熱球は井上組も之れを禦ぐ事難く残念乍らゲームワントを以て優退を得せしめた。次の和知組は金子馬屋原兩組を難なく打破優退した。川副組は敵の大將相馬組に當り互に祕術を盡し彼れシウトを送れば我れ又應ずるに或はロビングに或はプレツシングに出で上野又良く川副を助け敵のモーシオンを看破して得意のボウレーを以て攻撃に力めた。されど敵もさるもの互に敗けじ劣らじと茲を最後と戦つた。然るに其甲斐もなく憐れ相馬組は上野のスマツシングで止めを刺されてしまつた。

更に我が川副組は息もつがせず酒井組に當つたされど前戦の疲れにや奮戦利有らずして敗れたのは遺憾だつた。

従つて見事不戦組となりしと思つた三浦酒井の兩組も調子付ける酒井組の爲めに脆くも蹂躪せられてしまつた。

茲に於てか敵の彌次一層の聲援を加へ審判の宣告も聞えざる程喧囂を極めた。去り乍ら我が村松組は斯程の事に心膽を奪はるゝものでない、陣頭に現はるゝや阿修羅王の如く敵陣の隙きもがなと睥睨する有様物凄く斯くて審判の聲もろ共に打出す熱球電光の如く流石の酒井組も之には辟易し最後の命判も我が村松のシウトと太田のスマツシングの爲めに奪はれ我軍の大勝となりて戦局を結んだ。

對宗教大學

夏期練習の効果空しからず着々として鍛鍊せし我選手今や遠征を重ねる事茲に數回尙ほ日々元氣旺盛措く所も知らず又も遠く帝都の一角巢鴨庚申塚なる宗教大學と干戈を交ゆることとなつた。頃は仲秋中の拾四日時將に天氣晴朗眼界一點の雲も留めず空にはコバルトの色濃かに麗かなる陽光斜に照り實に愉快たる小春日和ではないか。而も天の我が遠征の門出を祝ふが如く風有れど

球を妨ぐるの力なく照ると雖も眩しからず實に好マツチ日和であつた。

審判官 酒井氏 宮川氏 安田氏

本學 宗大

○	○	○	○	○	○	○
諏和	上川	上川	原岡	原岡	大村	大村
訪知	野副	野副			田松	田松
3	3	3	3	3	3	3
0	0	1	1	0	1	0
田藤	清淺	安高	都米	城西	三森	小平
中井	水野	田橋	原築	澤	上脇	野林

不戦組 三浦小林組、井上吉川組、種村熊谷組

案ずるより産むが安いとやらの俗俚宣べなる哉相も變

らず村松組の先鋒がプレーボールの聲を耳にするが早いか敵の二組を破つて優退のマークを附けられた。次で岡

組も前者の勢に似ず難なく西澤都築の兩組を破つた。此日の功勞者の第一位は此組で有つたと云つても過言ではあるまい殊に原君のストツプボールと來ては百發百中思はず快を叫ばしめ常には容易に取れぬネットより低き球ですら平然として取つた其見事さ敵すら讚辭を發せざるものなかつた。次に川副組が高橋組と對陣した。初め川副組一向振はず如何やせしと訝かりしが流石は大將組である悠に迫らず遂にワンゲームを以て倒した。更に淺野組に當るや川副組の奮闘益々凄まじく上野のボールー美事圖に當つて忽ち彼れを零敗せしめて優退した。

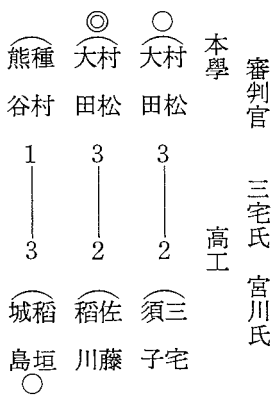
優退三組不戦組四組を有せる我が威力を目前に見る敵の最後の一組之れに心膽を寒からしめラケット握る力すら無く我が精銳なる和知組の爲めに玩具の如くに弄ばれ哀れ醜態を演じて退いた。

斯くして我軍は勝利を得た而も不戦組三組を残して凱歌を奏する美事さ、近く帝都に於て否な世界的庭球界に於て少くも専門學校の對校マツチとして斯如きシヤトアウトのスコワは未だ以て見ざる所である。今後早稻田日蓮を敵手とするも明治が高工と干戈を交ふも高師が宗教

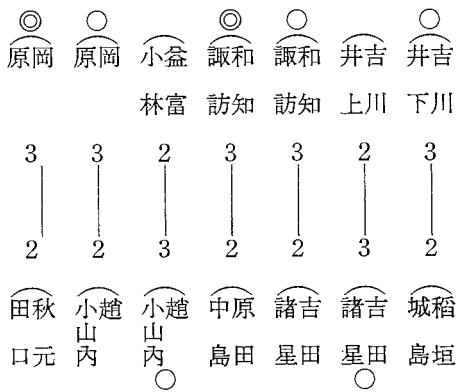
を破るも實に斯如き天晴れなスコアは夢にだも想像し難き所である、然るに我部が如期レコードを破りしは何たる痛快事であるか時に之れが我が他日斯界のオーソリチーとなるの其の前兆であるまいか。

對高等工業

先に日蓮明大と善戦し後に東協、宗教を破りし我部は茲に庭球界第二流に其人あるを知らぬ。されど斯程の現狀に戀々として止まるべき我が庭球部でない燕雀なんぞ大鵬の心を知らむやだ。我れ終に二流の中堅を奪はんが爲に高工に戦を挑む。彼れ又良く我が腕を知るや快諾。仲秋拾八日を以て其日を卜した。



アンパイヤーの聲厳しく四邊の寂寞を破る。敵方には三宅須子の勇士、當方には遠征數回に及べど連勝せざることなき村松大田の先陣打出す飛球電光石火の如く左補右助良く戦ひしが彼れも亦劣らざる勇士良く防禦に力め終ひに我れをゲームゼロツトと爲さしめあはや斃られしかと思ひしがそれは拔群の勇者終ひに撤回して敵を倒した。更に突進し來れる佐藤組も睜瞬間に打破られて我れ又先に優退を出した。種村組は敵方稻垣組と當り良く力



めしも其甲斐なく敵に斃らるゝ所となつて。吉川組之れに代つて御神圖に大吉を得たる吉川スマツシングの當ること神力の添へるが如く井上又良くシウトを送りしかば優勢遂に敵方を倒し、代つて敵方中堅の勇將吉田諸星を出した。されば吉川組苦戦禦げども敵の優る所終に潔く討死した。然るに代つて出陣せしは我中堅和知組なりしかば此れぞ面白き勝負見んものと思ひの外初め和知組一向振はずゼロツのゲームとなりて漸く奮戦し和知のシウト良く敵を破り諏訪のスマツシング敵を抜きて痛快や敵の中堅を斃した。次に對陣せる敵の原田組良く抵抗せしも力及ばずして斃れ我れ茲に第二の優退を出すに至つた。

當方の益富組と組みし趙組は其の實力に於て將に伯仲の間にありしも我が戰士若武者なりければ場怯けや取りしならん脆くも彼の破る所となりて岡組更に敵對した。

其の優劣や趙組と同日の談に有らず直ちに原のストツプボーレーで參つてしまつた。次に陣頭に現はれたのは敵將秋元組であつた。敵には之れは最後の一戦であるされば自重に自重を以て向つたが彼れの前衛や如何せん失

球多く後衛の力むる效空しく然るに我岡は若武者なれど既に數回の遠征に其膽を鍛へ不畏不慮天晴れ長く敵の隙きを窺ひ猛烈なるシウトを送り原亦得意なるストツプボーレーを出して敵を苦しめしかど敵陣終に亂れて哀れや首級を奪はれ我に破天荒の勝利を得せしめた。嗚呼壯絶！快絶！豪氣は眉間に溢れて莞爾として笑ふ。選手的心中又察するに餘り有りだ。

一粒の花の種子地中に朽ちず終に千輪の梢に上るとかや帝都の西方は常磐の老松の基に育まれ日に月に其極むる所怠らず今や嶄然として其の頭角を現はし茲に庭球界の空氣を振動するに至つた。春より秋に至る間遠征を試むること既に五回連戦連勝其間尠しく勝譲りしことなきしもあらざれど善戦長く其の實力を有する所炯眼ある者の凡て認むる所であらう。

此稿を閉づるに當て益々我部の發展を祈ると共に勝つて兜の緒を締めよの古人の金言を借りて選手諸君の努力を促すものである。

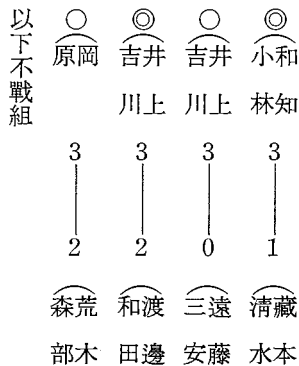
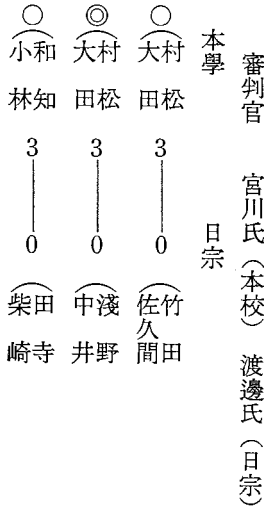
尙ほ末筆乍ら仕合ある毎に遠路を遠しとせず我部の爲

に應援の勞を取られし入江、塚原、山吉の三氏其他二三の諸氏に對し深く感謝せなければならぬ。勝敗元より時の運と雖も又選手の意を強ふする應援の有無如何に俟つ事の大なる敢へて記者の贅言を要せざる所で大方の諸君が知らるゝ所である、右記の諸氏の如きは實に良く其の眞を穿てる焔眼の士である多謝不盡。(文責在大瀧井上)

對日蓮宗大學

農友三十九号(大正四年九月)から転載

秋漸く深ふして勇氣尙ほ潑瀾即ち腦裏未だ去り難き今春の敗を雪がんに爲め、檄を日宗に飛ばして戰を挑む彼れ快諾、而も吾れを其校庭に迎ふ。維時大正三年十月二十五日也



(益)諏訪富

(上)川野副

(熊)種谷村

村松組先陣したり。敵の竹田組と先づ干戈の火蓋を切つた。村松のシウト大田のスマツシングの善く敵を抜き早くも竹田組敗を得て退き、次で淺野組代る、彼れ亦努力せしも敵するに難く、前車の轍を踏んで斃れ、終に村松組勞せずして優退となつた。和知組新たに田寺組を迎へて戰ふ。小林アウトを多く起し危かりしも、和知良く左補右助して固守せしを以て終に勝を得て續く藏本組も

ゲームスリーワンを以て敗れ、我れ亦第二の優退を出しぬ。

井上組亦遠藤を難なく倒し副將渡邊組に當る、一勝一敗共に旗色鮮明ならず、暫し彌次戦となり喧囂を極む、然るにジウスを數ふるに及び井上のプレーシング善く敵の隙を突きて、勢ひ頓に舉り爲に敵をして我れに降らしむるの止むなきに至り茲に於てか我れ第三の優退を得た。

次は或中堅岡組敵の大將組と争ひ亦も彌次戦の先驅、罵詈雑言至らざるなく宛然化して修羅場となる。斯る中にもゲームの足早く、既にツーオルを數ふる。彼れの宿命や將に此一組にあり、否最後のワンゲームにあらで、荒木、森部の奮戦目覺ましく、猛虎の狂ふが如く臥龍の跳るが如き其れに似て或はスマツシング或はボレー交々奇術を盡して我れに迫る。依つて我が岡組の善戦善闘實に名狀すべくもあらず。哀れや敵の刃に伏するかと思はる、されど我れもさるもの而も去ぬる敗戦を廻想しけん。更に元氣百倍屈する色なく努力奮闘殊に原のストツポボレー美事敵の難關を襲ひ、無殘や名におふ敵將も終に我が軍門に降つた、嗚呼快なる哉！ 壯なる哉！ 會稽の

雪恥知るや知らぬや。

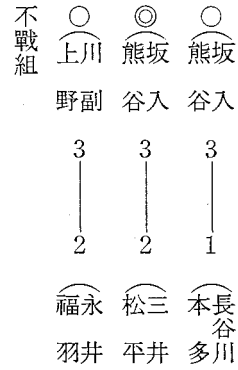
對學習院

艶葩枝を辭して綠翠代る五月八日學習院と其校庭に於て雌雄を決する事となつた、之れ大正四年に於ける初陣である、天もまた祝福たるにや、瑠璃の碧空晴れ渡り一陣の風だに無く、之れをしも好マツチ日和とせずして何をか他に求めんやである、いでや其日の巧を物語らん。

本學 學習院

審判官 西田氏(早大) 島崎氏(早大)

○(和)山	○(大)村	◎(小)岡	○(小)岡	◎(百)太	○(百)太
田知	田松	林	林	武田	武田
0	1	3	3	3	3
—	—	—	—	—	—
3	3	0	2	1	0
○(福)永	○(福)永	○(中)小	○(末)山	○(戸)野	○(秋)細
羽井	羽井	村揚	松梨	田村	月川



我が新進の士大田組、敵の細川組と當る、ゲーム單純にして見るべきなれども大田良く沈着を以て敵の二組を斃し優退の魁を爲した。

岡組次で末松組と戦ふ、初つ方敵の乗ずる處我に利あらざりしも勇將岡奮戦して努め、敵の難關を切り抜けしを以て勝ち、更に小場組を迎へ、急據敵を倒して優退を得た。更に敵將永井組我が副將村松組と敵對した。其處で見事其奮戦振りをと期待せしがコートコンクリートなればにや村松組一向振はず。而も敵方公達の事とて些少の彌次すらなく、我も亦聲援なければ情氣満々の中に破られ、和知組之れと代る、然れ雖之れ又如何にかしけん過去の猛者振りに似ず、恰も惡魔に呪はれたる如く生氣

地なくして敗を招き、茲に於てか敵方に名譽の優退を與へて仕舞ふた。

坂入組次で長谷川組と對した、坂入新進なれど善く熊谷を助け、ロビングを以て敵を逆境に陥らしめしかば、續く三井組をも倒して優退の第三組を出した。終焉川副組敵の永井組と當る。之れ將に彼我共に大將の白兵戰で、而も彼れに取つては最後の二組である、されば彼の努力目覺ましく、殊に前衛福羽のスマツシング我が上野に劣らず其美はしさ實に敵乍ら讚辭を呈するに躊躇しなかつた斯うして相對峙する事暫時、或は右を突き左を窮ひ或はスマツシングに或はシユウトに電光石火の如く兩者の相戦ふ様眞に猛虎、荒龍の争ふに似て何れを雌雄と見え分かざりしが、流石の彼れも我にや劣りけん、我が軍門に降り、我れ月桂冠を得て戦局を結んだ。

對高等工業學校

去ぬる晩秋の頃我れに破れし高工は無念やる方なく、果せる哉、春風一過早くも其の復讐戰を挑み即ち五月十五日を期して彼の校庭に於て干戈を交ゆる事となつた、

いでく次に其が顛末を説き詳細を聞れたし。

審判官 井上氏(農大) 高工卒業生某氏
本學 高工

○ 大村	○ 大村	百岡	○ 百岡	吉井	山和	種津	小太	◎ 上川	○ 上川
田松	田松	武	武	川上	田知	村田	林田	野副	野副
1	3	2	3	2	0	0	0	3	3
3	1	3	2	3	3	3	3	0	1
○ 田原	○ 井趙	○ 井趙	城三	○ 須稻	○ 須稻	○ 諸吉	○ 諸吉	○ 中沖	○ 稻佐
口田	口	口	島宅	○ 子垣	○ 子垣	○ 星田	○ 星田	島原	川藤

○ 上川	○ 上川
野副	野副
0	3
3	2
○ 諸吉	○ 田原
星田	口田

當日西風稍強くゲームに影響すること少くなかつた。我れ川副の大將組を先陣として鼓を鳴らし采を振り突進せしかば、敵方忽ち狼狽し、川副組二組を斃して優退をなした。續いて勢力旺盛なりしも中途に至り我が中堅と頼む和知組悪神に囚れしか意氣銷沈して脆くもゼロゲームを以て葬られ、爲に我が勢ひ頓挫し、以下岡及び村松組も各一組を倒せしのみにて敗退し哀れ残るは川副組あるのみとなつた。然るに敵方を見れば我が失策に乗じ既に二組の優退を勝ち得ぬ。而も敵方に取つては過ぐる敗戦の復讐戦である。されば彌次の聲援甚だしく、恰も虎狼の吠ゆるに等しくして其喧々囂々たるアムパイヤーの宣告も耳にし難き程であつた。全責任を相肩に荷ふた川副組、彼等の二組有餘の優退を併呑せんものをと陣頭に現はれ、一段と嚴めしき審判の命令と同時に暴れ出す光景、恰も阿修羅王の狂ふが如き概があつた。

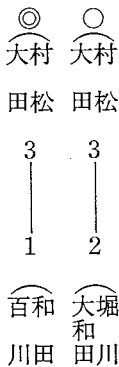
斯くて原田組之れに當りしが其勢ひにや心膽を寒から

しめん。終に降るの止むなきに至り吉田組と代つた。茲に於てか又もや俄然彌次連蹶起して妨害する事限りなし。我が大將如斯きに辟易するものに非ざれど思はぬ失策に乗ぜられ疾風の如き上野のスマツシングも電光の如き川副のプレーシングも今や效を奏せず無残や龍頭蛇尾に終つて、屍を洒らすの悲境に陥入り月桂冠を奪はれて仕舞ふた。

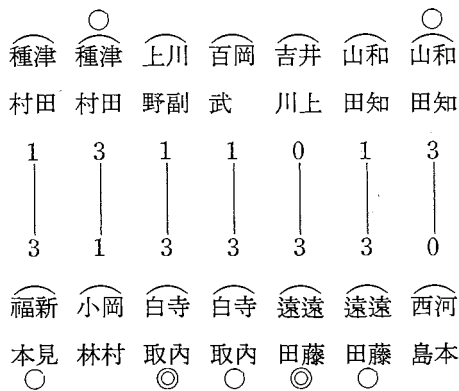
對明治大學

昨日藏前に奮戦して利あらず、不安の中に夜を明けし我選手今日の戦をや如何にか安せん多恨なる春のシーズンよ！先春駿河臺に破れてより既に一春秋再び彼れと茲に會す、豈復讐せずして止まんや、即ち五月十六日をトして彼れと我が校庭に干戈を交ゆ。

本學 審判官 荒川氏（明大卒） 森川氏（明大）
明大



此の日日曜なれば雙方共に多勢の聲援を備へ、擲擧の交換又は罵詈の浴せ合ひ到らざるなく、盡きざる程であつた。最初村松組の先鋒にてプレーボールの聲を耳にするや否や難なく敵の二組を破つて優退のマークを附けられた。されば此勢を以て進まば本日の戦や幸あらばと秘かに我意を強せしもゲームを重ねるに伴れて我に利がなかつた。而も大將組で斃るゝに及んで全く一同を絶望の淵に進めた。



然るに敵方を數ふれば優退二組に餘り今や敵將新見組優退せる、村松組を襲はんとして居るではないか、嗚呼大厦の將に覆らんとするに當り一木の良く支ふべきや否や、我が村松組の惡戰苦闘實に同情に價するもの多かつた。天命果せる哉終にゲームスリーワンを以て敵のラケットに斃れて仕舞ふた。

敗軍の將は兵を談ぜずとか、されどく、吾人は茲に敢て一言を呈したい、曾て記者は古人の金言を借りて「勝つて兜の緒を締めよ」の語を遣した事があつた。然るに其後我が選手の練習が——勿論種々の事情もありしならむも——餘りに努力を缺いて居た。其例證としては今春以來何れのゲームに於ても其打方等の靜的方面に於ては優に他を凌ひて居るも攻撃及び防禦の如き其の動的方面に於ては他に遠く及ばざる處で、而もゲームの永續性に乏しきは良く其處の消息を語るものならん。

夫れ播かぬ種子は生えぬとやら、宜なる哉、其言や收穫の豊富を望まんとせば種子の最善、手入の綿密なる何れか多大の努力に俟たざる、而も農學の識者一般の良く

知る處である。播かずして其が收穫の豊富なるを期待するが如き愚人の眞似を敢て學びたくないものである。希くば選手諸君よ、敗軍の悲哀？ 敗軍の苦痛？ を知るならば一層の努力と一層の奮闘あれかし、されば努力の終り、奮闘の果てには名譽ある優勝が結ばれ光榮ある月桂冠も續くならん。

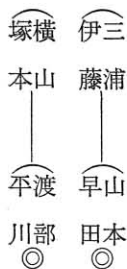
春季大會

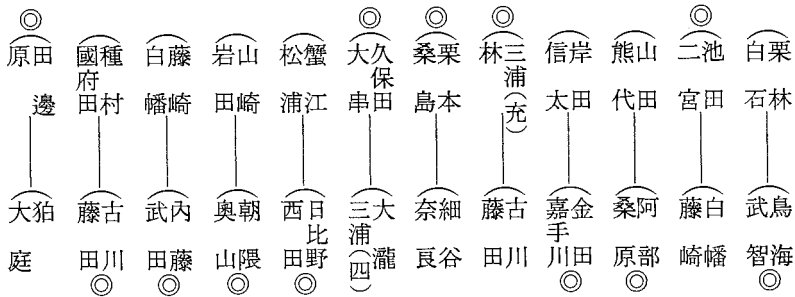
青葉若葉の新綠、滿目の山河を包み、コバルトの空瑠璃と競ひて愈翠く、常磐の老松また新たなならんとする五月三十日をトして、我部春季大會を開催する事となつた。而も當日は都下十四校より各一組宛の選手を招待して共に球に戯れ、ラケットに遊び麗かな春の日を送つた。

當日のメンバーを示せば左の如し。

午前の部 校友紅白勝負

紅 白





午後之部 對他校選手

審判官 福本氏(明大)

本學 他校
高蠶

○熊種
谷村 3
|
2
石西
川村

學習院

吉井 0
川上 3
|
末山
松梨

宗大

中栗 2
村本 3
|
平山
野内

早實

藤三 2
田浦 3
|
前佐
田野

青山學院

上岡 1
野 3
|
渡長
邊野

日蓮

小大 1
林田 3
|
荒久
間木

東洋協會

○山和 田知 3 0 中鈴島木

高商

○百岡 武 3 0 境久保野田

明大

山和 田知 1 3 白和取田

農科

小太 林田 2 3 田川久保

早大

大村 田松 1 3 西大田藪

帝大

○原井 上 3 1 加吉藤

終つて一同に茶菓を饗し彼我共に胸襟を開いて四方山の物語に愉快を盡し、談笑の間に解散した。時に六時、晩春の夕陽、西山に落ちて層雲。パアプルを織出し、夜の序幕を形ち付くる頃ほひであつた。(文責在大瀧、種村)

對宗教大學

農友四十号(大正五年一月)から転載

梧桐一葉落ちて天下の秋を知るとかや、今は運動の好シーズン、而も夏期練習に於て技を練り術を極めし我選手は誰か肉踊り骨鳴るの感なきものかあらん、茲に於てか九月二十六日巢鴨宗教大學へ檄を飛ばして戦ひを挑む、幸なる哉、彼れ快諾依つて彼れを我校庭に迎ふ、左に當日の功を物語らん。

審判官、清水氏(宗大) 井上氏(本學)

本學

宗大

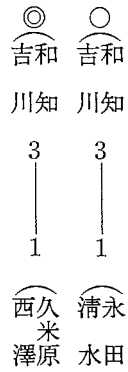
○百岡 武 3 0 小都築林

○百岡 武 3 0 三結上城

小太 林田 3 3 山安田

○上川 野副 3 1 山安田

○上川 野副 3 0 高淺野橋



以下不戦組

(益富)久保田

(大村)田松

當日強風吹き荒みたりしも我がコート地の利を得て球を競ふに難からざれば遂に午前十時五十三分開始した。

岡組の先陣にて戦端を開く、小森組平凡にて見るべきものなく、續く結城組と共にゼロゲームにて、凡死し早くも我れに優退を與へぬ。太田組新たに安田組と當りしも、敵強くして敗られ、されば我大將川副組代つて當る、一組を斃し安田組少しく得意に見えたりしが川副の疾風の如きシウト、迅雷の如きストツプボレイの爲に、意氣を挫かれ恰も強弱相敵せざるの狀を以て敗退し淺野組之に代る、然れ雖之れ亦前車の轍に倣ひ、爲に奮戦利あらずして終に敗れ、我れに第二の優退を出しぬ。

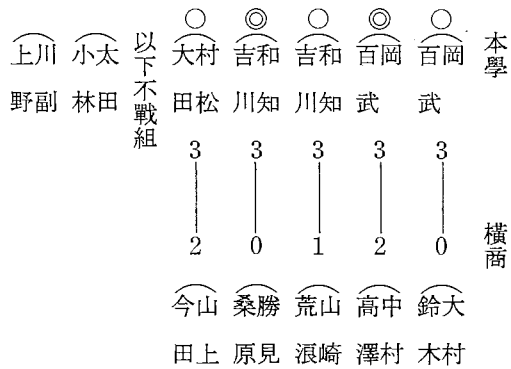
和知組次で永田組と戦ふ、敵方後衛始終ロビングを出

し、爲に吉川機を得ずして前衛の任を完ふせざりしが和知良くプレイングを以て守る、然るに敵方ネットアウトの失敗を連發す。されば手を多く要せずして勝つ、久米原組次で代る、此組は最後の戦なるを以て死に物狂ひの奮闘をなし、和知組も一時は危く見えしが漸やく挽回して纒に優退となる、茲に於てか優退三組、不戦二組を残して全く我軍の大勝に歸しぬ。

對横濱商業學校

形勢頓に昂り、斯界に其名を得たる我部は終に遠來の客を待つに至つた、即ち對横商戦の出現之である、彼れ若輩なりと雖、技術に老けたるもの豈侮るべけんや。茲に於てか仲秋三日をトし彼れと我校庭に戦ふ、此日恰も宜し、風穩に陽笑ひ、肥ゆるもの獨り馬のみ、高きもの獨り天のみに非ず、我が選手の功や高く其技や肥えぬ、いでや此日の戦況を記さん。

審判官 井上氏(本學)

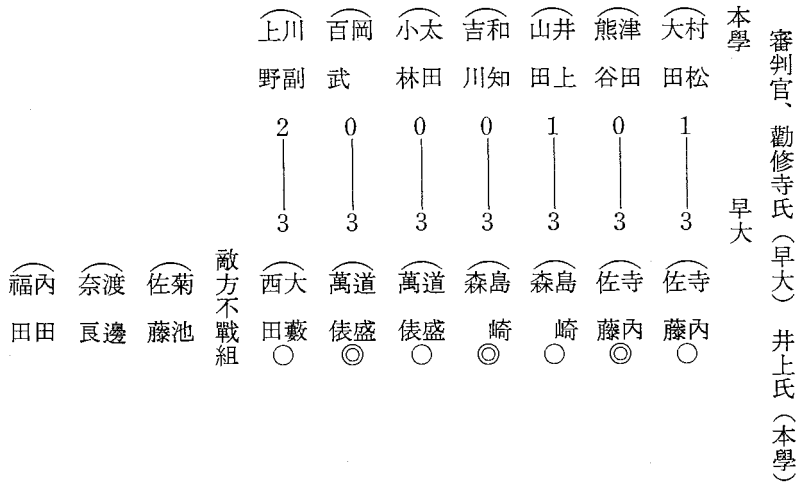


例の如く岡組の先鋒、早くも大村組を破り中村組を破り中村組と接戦、初め一回は難なく勝ちしが、續く二回は百武のスマツシング失敗多く、岡のシウトも敵の前衛に奪はれて、あはや脆くも見えしが百武の自重、岡の守備宜しきを得て、終に回復して敵を破り、優退した。和知組對山崎組の接戦、和知の猛烈なるサヴァアの爲に敵方頗る苦しめられ第三回のゲームの如く全くサヴァアに

依つて敗れる、然雖敵の前衛も猛者にて殆ど百發百中、敵乍ら天晴と云ふも憚らない程であつた。次で勝見組代りたるも、亦もやサヴァアの爲に、殆ど見るべきものなく凡死し、我に第二回の優退を出しぬ。最後には敵將川上組と我が副將村松組の對戦となる、村松のシウト、大田のストップを以て善戦長く努めたりしが彼れも亦少くも敵將なれば凡死するものに非ず前衛後衛共に奮闘努力して我に抗し殆ど互角の争ひなりしが、我れ一日の長や、有しけん、彼れ敗れて、我れ勝ちぬ、斯くて横商軍は一組の優退すらも勝ち得ず終に遠征の幟旗を伏せて我れに降りぬ。

對早稻田大學

初秋以來、連戦勝たざるはなく、其勢ひ隆々として旭日の東天に冲するが如く、今や第二流に於て其技を競ふは餘りに不足を感ずるに至つた、茲に於てか一躍以て第一流の早稻田と戦を挑む、彼れ快諾而も我れを其の校庭に迎ふ、夫れ風強ければ浪高しかや、いで／＼我選手が其奮闘振りを見よかし、維時大正四秋の拾月五日也。



副將松村組の先陣にて敵の寺内組と戦端を開く大田目覺しき奮闘を爲せしも、村松一向に意氣昂らず、爲に期待せし程のゲームも爲さず空しくスリーワンにて倒さる。津田組代つて當りしも敵せず終に敵方に優退を與へた。次に井上組對島崎組の接戦となる、山田、得意のスマツシングに或はストップボレイに交々敵の難關を美事襲ひしも井上のバック早くも敵に看破せらるゝ處となる、此弱點に乗ぜられしかば惡戦苦闘を以て遺憾乍ら敗れて仕舞つた。次で敵對せしは中堅和知組なれば敵を喰ひ止めんと私に思ひしも之又如何にやしけん、吉川の如き惡魔に囚はれしかの如くカタクなりて殆どミツスに終り早くも敵に第二の優退を出さしむ。

太田組、道盛組に對せしも流石は一流の名に負ふ副將なれば彼が打出す、シウト或はプレイングの爲めに何かは以て堪るべきや恰も磐石に鶏卵の鉢合ふに似て、續く岡組迄でも凡死、して彼れに第三の優退を出さしむ。

嗚呼、薄命なる哉、此戦や、彼に三組の優退を出せしも我れに織介の利だにあらず、今や剩す處僅に一組あるのみ、聽て彼等大將組の白兵戦が演ぜられた。川副のバツ

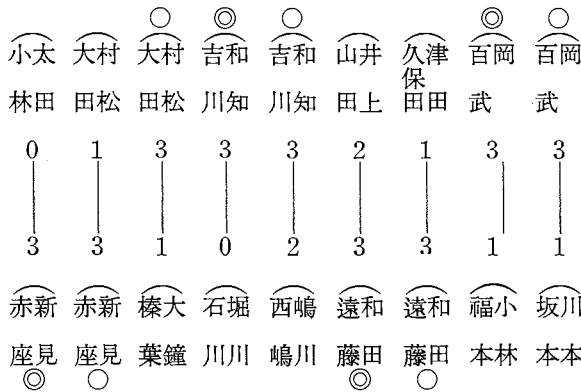
ク、上野のスマツシング交々敵を危境に落し入れ早くも二回の勝を得、敵將實に危く見えけるが、敵もさるものなれば自重長く守備し、終に形勢を挽回してゲームツールを宣せられて、戦鬪將に酣に入りて、何れを勝ちとも見えざりしが、哀れや、我れに武運拙なく、終に敵前に屍を晒さねばならなかつた。而も彼れ、三組の優退と三組の不戦者を得て月桂冠を得た。終りしは五時間近くて早稻田の森に黄昏の宿り初めし頃であつた。此戦ひ我れに利あらず敗北を招きしも、我れに取つて學ぶべき處、頗る多かりし事を信じて疑はぬ。

對明治大學

我部過去の戦史に於て、彼れと干戈を交ふる事既に二回、而も戦ふ毎に敗戦し、未だ一回の復讐もなし得ず、終に今日に至る然りと雖も今日の我昨日の我れに非ず先に早稻田と戦ひ敗戦に歸せしも、善戦し我が昨今の實力を物語つて餘蘊なし、茲に於てか機の熟するを見て、彼れと雌雄を決せんことを挑む、彼れ我が今日を知るや知らずや、快諾して我れを其校庭に迎ふ。之ぞ彼我第二流

に於ける霸王の爭奪戦とも見得べきである。時は恰も宜し仲秋十四日一陣の金風都を訪れ、駿河臺上の草木亦錦繡を以て飾らるゝ頃である、いでや當日の戦況を物せん。

本學 明大
審判官 佐藤氏(高工) 諸星氏(同)



○(上)川 野副 3 ——— 2 (和)遠 藤田
 (上)川 野副 (新)赤 藤田
 (新)赤 藤田 (見)座

岡組は敵の河本組と當つて干戈の火蓋を切る、兩者其の技倆に於て殆ど伯仲の間にありてゲーム甚だ面白く、第二回目の如きジウス、アゲンを繰返す事六回に及ぶ。傍觀者をして擧つて唾を飲み手に汗を握り只默然たらしむ、兩軍或は前を窺ひ後を突き交々奇術を盡し合ひしが終に岡組の勝ちに歸し、更に小林組と戦ふ。敵の前衛善く攻勢を取りしも後衛當を得ず終に岡組に敵せずして敗らる、されば我れ早くも優退の魁をなしぬ。津田組對和田組の對戦、津田プレイシングを以て力めしも、敵前衛の奪ふ處となり、而も前衛久保田場馴れざれば一向に振はず、脆くも破られて井上組之と代る。兩軍優劣なく一勝一負なりしも、スリーツを以て破られ、敵方第一の優退を出しぬ。

次で嶋川組と和知組の對戦となる。敵の前衛見事なるストツプボレイを打ちて奮闘せしも和知の守備固くして終に彼れを斃し堀川組に當る、されど之れも亦和知組の

敵に非ず、直に破られて退き、我再び第二の優退を出しぬ。斯くて敵方形勢振はざるに及び、野次連俄然と起ち、罵詈に、嘲笑に到らざるなく、盡ざるなき有様となつた、然れども我れ斯如きに心膽を奪はるゝものに非ざれば副將村松組泰然自若として敵の新進大鐘組と對戦した。村松のシウト大田のスマツシング到底敵の及ぶ處にあらざれば難なく敗られ、更に敵の御大新見組と對抗する事となつた此ゲーム我れに初めの方形勢長かりしも、敵方流石名におふ大將なれば、大田のスマツシングも效なく、村松のシウトも敵の奪ふ處となり無残や、スリーワンを以て破られた。續いて太田組敵將に當りしも、如何んせん、強弱相敵せずして凡死し、爲に敵將難なく優退となる。此時最早や黄昏に襲はれコートラインも明かならず、球の行衛も定かならざれば、審判官よりドロングゲームの動議出でしも、競技に熱中せる兩軍は強て戦闘を持續する事に一決した、されば再び優退の争奪戦が演ぜらるゝに至つた。先づ我大將組敵の第一優退を襲うた、然る時亦もや敵方彌次喧々囂々を極め、其状恰も鼎かたなの沸くが如く、審判官の宣告も耳にし難き程であつた、斯る中にも

ゲームの足早く、我大將敵の優退を奪つて今や、將に敵の大將と雌雄を決する事となつた。一軍の勝負を双肩に負へる兩將が戰鬪振り、猛虎の狂ふが如く、臥龍の跳るが如き其に似て凄くも勇しく見えけるが、如何にせん、黄昏の襲ふ處、人工の止め難く今や物のあやめも見分かずなりしかば、終にアムバーアが宣告の許に無念やドロングゲームとなり終りぬ。嗚呼、天なる哉、命なる哉彼れには剩す處唯大將一組なれど、我れには二組の優退と大將組とを存する優勢に於て、而も此戰に依て過去の敗恥を雪がんとする、我に於て、茲にドロングゲームを餘義なくせられたるは實に斷腸の思ひあらしめた。時は既に六時に垂とし、ニコライのタワーからは聖徒を呼ぶかの如き、晚鐘の音譜鳴り互り、天にはスターの爛めく頃ほひであつた。

對東洋協會

綠衣落ち盡して、枯木秋風に鳴く頃ほひ、即ち十月十六日を期して、彼れを我校庭に迎へて干戈を開く、いでや當日の功を物語らん。

審判官 赤座氏(明大)

本學 東洋協會

○	○	○	○	○	○	○	○
上川	小太	山津	山津	吉和	吉和	百岡	百岡
野副	林田	田田	田田	川知	川知	武	武
3	1	3	3	3	0	3	3
1	3	0	2	0	2	0	0
○	○	○	○	○	○	○	○
金栗	金栗	奥岸	中淺	赤梅	三鈴	小川	富北
子橋	子橋	平	島井	木田	枝木	川本	塚川

以下不戰組

久保田 井上 大村 田松

此日曇天、無風の好マッチ日和であつた。剛膽なる岡

組又もや、皮切りとなつて戦端を開く、されど段違ひなればゲーム單純に見るべきものなく、直に敵方二組を倒して優退となる。和知組次で鈴木組となる、敵方前衛見事なるスマツシングを以て抜きしも、和知守備に努力して、敵を退け續く梅田組をも重ねて、優退した、津田組新たに敵の副將淺井組と當る、敵も頗る奮戦せしが山田のスマツシング善く突き、津田も亦當日は振ひしかば終に敵を倒した、岸組次で當りしも平死し津田組難なく優退となる。

太田組對栗橋組の戦となる、流石は敵將程に難なく大田組を破り、我が大將組に當る、敵將最後の奮戦善く戦ひしも、川副のバツクに突かれ、如何せん、衆寡相敵せざるの有様にて敗れ、敵方は終に我軍門に伏した。

對千葉醫學専門學校

日を沿ひ、月を重ね、連戦連勝、殆ど一瀉千里の勢を有せる我軍手は、亦もや茲に遠來の珍客、千葉醫學を迎へて其技を競ふことゝなつた、維時十月十七日也。

審判官 戸賀崎氏(千葉) 井上氏(本學)

	以下不戦組										
	(井上)	(川野)	(大村)	◎(吉和)	○(吉和)	◎(山太)	○(山太)	◎(百岡)	○(百岡)	本學	千葉
	林	副	田松	川知	川知	田田	田田	武	武		
				3	3	3	3	3	3		
				0	2	1	1	1	0		
			(古古)	(笹高)	(中戸)	(渡小)	(山巧)	(安蘆)	(高青)		
			作川	生田	賀澤	邊野	田刀	田	木木		

當日曇天にて、疾風吹き荒み、時々雨さへ持來たる、ゲームには頗る困難を感じた。午前十時審判官の發聲と同時に岡組對青木組の戦端が始まつた、敵の繼ぐ二組は

何れも凡死して岡組容く優退となつた。次に山田組敵の巧刀組と當る、後衛巧刀守備に努力せしも、山田のスマツシングの爲に陣形を亂され、惡戰苦闘終に破らる、更に小野組續きしも、一日の長ある太田組には敵せずして敗退し、我れは第二の優退を得た。此對戰終るや否や、疾風一陣を送り來つて爲に暫時中止となりしが、纏て雲の途切れを待つて、再び戰端が續けられた。今度は和知組敵の大將戸賀崎組と當る、彼れは一軍を率ゆる將なれば流石ゲームも見事にて暫時は一勝一負を繰返すのみなりしが彼れ武運拙けん、和知組危くも、苦戰苦闘して更に高田組に當る、されど彼れ平凡にて間も無く葬むられ、我れに第二の優退を譲りぬ。此時亦もや風雨に襲はるゝ處となり、今は到底齋れべくもなければ全く中止の止むなきに至つた。斯くて醫專の爲に涙を注ぐかと思はるゝ風雲故に、抜きし名刀も宜しく鞘に納められドロンゲームを餘儀なくせられたのは返すゝも残念であつた。

今秋以來干戈を交ふる事、前後六回に及び、殆ど連戰連勝、但し其間早大と戰ひ、尠しく敗を來せし事なきに

あらざれども善戰良く其實力を發揮せしは、炯眼あるものゝ凡て認むる處であらう。斯くて今や我部が斯界の第二流に其覇を争ふの位置にあるは、蓋し偶然の事にあらず、選手が過去に於て拂へる努力奮闘の賜のみ。望らくは、親愛なる選手諸君！ 今後に於ても益々努力して、向上發展し、斯界のオーソリチーとなられん事を。稿を閉づるに當り、マツチある毎に、遠路をも顧ず、熱心に應援の勞を取られし、本科二年の古川君、其他二三の諸氏に對して深く感謝せねばならぬ。蓋し應援は選手の背景をなすものにして、選手の意を強うすること偉大なる、敢て記者が喋々を要せざる處であらう。(文責者大瀧、種村)

●●●●● 庭球部遠征記

今春以來、日に月を重ね、都下に轉戦して、其功空しからず我が實力の充實せる處斯界の普く認むる所なり而して今や都に戰ふの敵少なく、吾人は何地か遠征を企んと謀りつゝありしが、折しも早大庭球部の關西に赴くありて、益々我が意を動かせり。然雖學校との之が交渉多

少の蹉跌を來せしを以て、暫時、機の到るを俟ちしが果せる哉、幸なれや千載一遇とも云ふべき御即位大典の此事あり本學も亦祝意を奉じ、一週間の休校となりしかば、過日吾人の逡巡も一掃され終に拾壹月拾日より一週日を期し、東北の天地へ遠征を試みん事を決しぬ。快なる哉、壯なる哉、維時大正第四秋霜月十日なり、長くも十全萬乗の君、四民に對し踐祚の大典を行はせらる當日に非ずや。天には紫色の瑞雲棚引き、地には滿飾の翻るあり、吾人には亦遠征の此事あり、吾人の歡喜や蓋し岩に花咲くの思ひあらしむ。

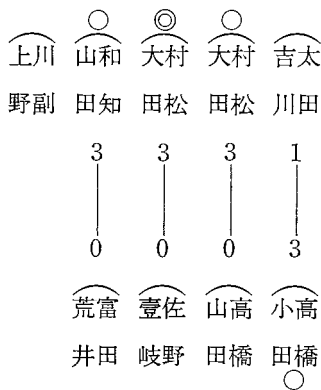
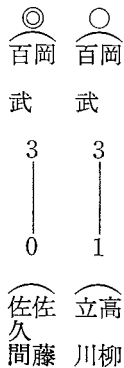
今左に戰況の概略を物語らん。

對福島中學

拾一月十一日午後三時開始す、曇天にて雲低し。

審判官、岡部先生(福中) 副審井上氏(本學)

本學 福中



先鋒として岡組の新進出で敵の副將高橋組に當り、初め一方敵の應援猛烈なる爲、脆くも一ゲームを奪はれしも、大に自重努力して、岡が得意のスキフトを以て前後衛の中間を突き、百武又之れに乗じ獨特のスマツシングを以て打つ事數回、終に美事敵を倒して次の佐藤組に當る、然雖彼れは敵にあらざれば岡組易々として優退す。元氣に勇める大田組敵將高橋組と對戦す流石敵將を以て任ずるものなれば、後衛のスキフトの如き大田のロビングも到底其效を奏せず、數回惱まされて遂に敗退し、村松組之に代つて立つ、一組を倒せし敵將聊か得意に見えたれど我副將村松組に對して遙か遜色なきを得ず、果せ

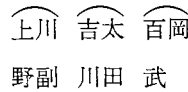
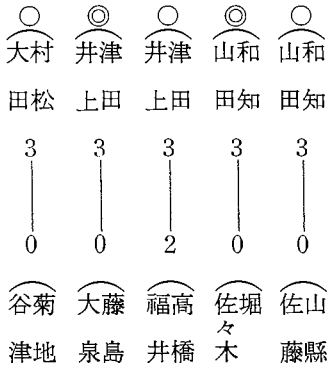
る哉、大田のストップ村松のシウト實に彼れを見舞ひて難なく零敗せしむ。續いて佐野組當りしも、強弱相入れず、枕を並べて倒れ、我れ茲に第二の優退を出しぬ。最後に和知組敵の富田組と相對せしも段違ひなれば見るべきもなく零敗せしめられ、我れは不戦一組を残し、遠征の初陣に大勝を博せり。時は四時五分なり。

對仙臺東北中學

同月十二日午前十時五分開始

審番官鹽氏(商業) 副審井上氏(本學)

本學 東北中



頼もしき和知組先陣となりしかば間もなく山縣組を敗り、續く堀組をも舐めて優退に魁す。次で津田組敵の大將高橋組と對し苦戦苦闘す、津田の半ロビングとプレイシング頗る效を奏せしも前衛井上は元來後衛なれば、前衛の職責完ふし難く、殆ど一得一失を來せり、然雖大膽にも敏活なるモーションを取り、以て敵の後衛を壓し同時に我が後衛をして自由に活動せしめたる事與つて巧少なしとせず。斯くて危くも三對二を以て勝を得、次で藤島組と當りしも、難なく彼れを破りて優退せり、敵の副將菊地組我が村松組に當り、敵には最後の一戦なるを以て死力を盡して戦ひしも、大夏の將に覆らんとして一本の柱長く支ふべきもあらず哀れや終に零敗せしめられ、我軍門に降り、我れは亦月桂冠を得たり、終しは十一時

十分なり。

對仙臺第一中學校

同月十二日午後二時十二分開始、此日晴天にて碧空一點白雲だに認めざる程なりしも惜むらくは、風稍強くして球を競ふに難かりし。

本學 審判 福山氏(二高) 井上氏(本學)

◎大村	○大村	◎山和	○山和	◎上川	○上川	百岡
田松	田松	田知	田知	野副	野副	武
3	3	3	3	3	3	2
↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
2	1	1	1	0	2	3
丸佐	高木	高熊	横佐	小菊	奥千	奥千
谷浦	車戸	橋谷	山藤	野地	田葉	田葉

吉川田
津上田

岡組對敵副將千葉組に依て戰端を開く、實に油斷は大敵とかや岡組初めより敵を輕んぜしかば其譬に洩れず、早くも敵にツーゲームを取られ、周章狼狽して奮闘努力し漸く二ゲームを回復せしも遂に中學式のトウキストの爲に思はぬ敗を取れり、敵は勢に乗ず我が大將川副組に當りしが其状恰も龍車に向ふ蟻螂の如く殆ど敵に非ずして退き、續く菊地組も川副のコントロール上野のモーシヨンの爲めに自滅して我れは第一の優退を出せり。

和知組次で敵の中堅佐藤組と當り、和知のシウト、山田のスマツシング交々敵を逆境に陥らしめ終に續く熊谷組も束ねて斃れ第二の優退となれり、村松組新に敵將木戸組と對戦す、村松の疾風の如き熱球、敵の急所を突き又大田の電光の如きストツプ・スマツシングに流石敵將も自由を得ずして倒れ、代りし、佐浦組も二の舞を踏み敗られ、我れは勝利を得て連戦の巧を重ねぬ。時に四時十五分なり。

對第二高等學校

同月拾三日午前拾時四拾分開始、當日晴天、無風にて好テニス日和なり。

審判 秦野氏(醫專) 某氏(一中卒業生)
本學 二高

(上川野副)	○山和田知	○山和田知	○百岡武	○百岡武	(吉太川田)	○大村田松	○大村田松
	3	3	3	3	2	3	3
	1	0	0	0	3	0	0
	(大菊幸地)	(守湊屋)	(荒橋井本)	(横福岡山)	(横福岡山)	(宗瀬片戸)	(池宇賀田)

(津井) 上田

村松組、敵の中堅宇賀田組と合戦す、宇賀田長く自重してネバリしも前衛池上我れに制せられて殆ど活動する能はず、爲めに零敗を喫して斃る、瀬戸組代つて當りしも我が敵にあらざれば終に敗退す。太田組敵の副將福山組と接戦す、太田半ロビングを以て善く、守備に努め、吉川も亦適當なるモーションを以て、奮闘せしも、敵も亦さる者なれば容易に勝負決せざりしが福山のトウキストの爲に武運拙なくして敗らる、されば憤慨せる岡組代つて當り頗る善戦し福山組、橋本組をも零敗せしめて優退す、本日岡組の奮戦賞するに價ありき。

更に和知組は湊組を抑へて破り次で大將菊地組に當る。流石は大將なれば打つ球見事なりしが味方の連敗なるを思ひてか狼狽し加ふるに和知が得意なるシウト及びロビングを以て、守備し山田も亦例の確實なるスマツシングに當りたれば、心膽を奪はれけん前衛活動の機を逸し、後衛も思はぬ失策を重ねて哀れや敗退の止むなきに至れり、茲に於てか小としては仙臺を代表し、大としては東

北を代表する二高選手も無残や我に月桂冠を奪はれて戦局を結びぬ。

對仙臺第二中學校

同月十三日午後二時四十分開始、

審判官 港氏(二高) 井上氏(本學)

本學 二中

○ 大村	山和	○ 山和	◎ 上川	○ 上川	◎ 百岡	○ 百岡
田松	田知	田知	野副	野副	武	武
3	1	3	3	3	3	3
0	3	1	0	1	0	0
石舟	石舟	坂伊	石瀬	及兎	伊安	狭米
丸木	丸木	下澤	丸戸	川澤	東東	川山
	○					

(太) 吉川田

(津) 井上田

岡組先鋒に出で敵の副將米山組と對戦せしも殆ど段違ひにて勞せずして勝ち、次で安東組抗せしも零敗せしめて優退せり。大將川副組兎澤組を破り、次で瀬戸組を倒して優退せり、之等共に物の數に入らざる雜兵なればゲーム簡單にして記すべきものなし。

和知組出でて伊澤組を破り、更に大將舟木組を迎ふ。和知或はロビング、或はシウトを交々に送りて奇計を弄せしも、舟木巧に半ロビングにて我が前衛を逃れ、石丸も偶々有效なるストツプを落し、殊に其プロツク效を奏し、爲に我が和知組も遺憾乍らゲームスリーワンを以て破られたり。されば村松組代つて之に當る、一組を敗りて意氣稍々昂れる敵方も我村松組に對しては遙か遜色なきを得ず、戦端を開くや間も無く、破りて顔色なからしむ斯くて優退二組不戦二組を残して我が大勝に歸しぬ。時に四時を過る僅か三分にして一時間有餘のゲームなりき。

同月十四日午前九時廿五分開始せり。

對仙臺商業學校

審判 高橋 (東北中) 井上氏 (本學)

本學 商校

(吉太)	(村岡)	(山和)	(上川)	(上川)	(大井)	(大井)	(百津)	(百津)
川田	松	田知	野副	野副	田上	田上	武田	武田
			3	3	3	3	3	3
			0	1	1	0	1	1
			(菅市)	(小村)	(梅佐々)	(鹽櫻)	(吉齋)	(後鈴)
			野川	林上	村木	井	岡藤	藤木

彼我段違ひなれば、ゲームに見るべきものなく、シヤ
ツトアウトを喫せしめて大勝を博せり。

同月十五日午後零時四十五分開始

對相馬中學

審判 某氏 (相中卒) 井上氏 (本學)

本學 相馬中

(吉太)	(山和)	(太村)	(百岡)	(百岡)	(上川)	(上川)
川田	田知	田松	武	武	野副	野副
		3	3	3	3	3
		1	0	2	0	0
		(廣池)	(佐志)	(岡倉)	(熊笠)	(松鈴)
		瀬田	藤賀	田本	耳井	本木

川副組先陣す。敵方雑兵なれば、我大將に比し雲泥の

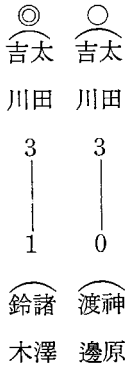
差あり、續く二組共零敗して退けり。岡組敵の大將倉本組と會戦す、岡組初め一向に振はず、倉本のサヴァーに惱まされて早くも二ゲームを先じられしかば、百武頗る狼狽し殆どコート中を驅廻り、大膽なるモーシヨンを取りしも一得一失、危く敗れんと思ひしが此時より岡勇を鼓し、氣拔なる熱球を送りて終に形勢を挽回して勝てり蓋し敵は若輩なりしにもせよ、岡が挽回せし技倆と大膽とは將に天晴と云ふべし。志賀組次で當りしも到底其銳鋒に抗する能ずして破れたり。

村松組池田組を斃して我軍五たび大勝せり。

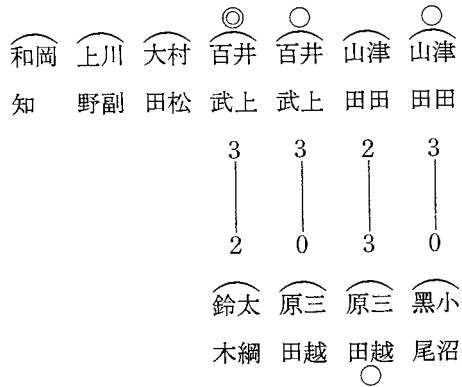
對水戸中學

同月十六日午前拾一時五分開始

審判 加倉井氏（水中卒） 和知（本學）
本學 水戸中



爾來不運なりし太田・吉川組も當日は奮慨して目醒しき活動振りを見せ、神保組、諸澤組も難なく破りて先の敗戦を雪げり、津田組小沼組を倒して意氣揚々たりしが敵の大將組に對するに及びて、三越が怪サヴァアの連發の爲に手を出す能はず、サーヴ側に於ては勝ち得るも、レシーヴ側にては敗を來し、斯く一勝一負を繰返して苦戦せしが終に利あらずして敗れたり。井上組代つて三越組に當る、彼れは前の奮闘にや疲れけん、サヴァアも前



回の如くならず、加ふるに井上のスキフト盛に襲ひ來たり、百武の電光石火の如きスマツシング難關を突きしかば、陣形頓に亂れ、大將の鐵腕に狂ひを生じ終に自滅し敗退せり、但し原因の確かなるスマツシングは實に見事なりき。次で大綱組當りて善く戦ひしも老将井上の腕に敵し兼ねて敗北せり。

對土浦中學

同月拾七日午後二時十分開始

審判 中條氏(土浦俱樂部) 和知氏(同上)

本學

土浦中

○ 大村	◎ 上井	○ 上井	◎ 吉太	○ 吉太
田松	野上	野上	川田	川田
3	3	3	3	3
0	1	0	1	0
○ 山柴	○ 中助	○ 今根	○ 島小	○ 葉清
口野	山川	橋本	田野	梨水

○津川 副田

○和知 武知

土浦中學は我が庭球部の中堅和知君の母校なれば一層の面目を保ちつゝ競技せり。此マツチは殆ど平凡にして特に記すべきものなけれども、強て記さば、井上組對根本組のゲームに於て井上のシウト疾風の如くにして敵方前衛の取り能はざりしと、上野が例の見事なるストツプ及ボーレイの好模範を示せし事なり又松村組對柴野組のゲームに於て大田が例の敏活なるモーションを以て百發百中の藝當を見せし事等之なり。

斯くて一週日餘の遠征に於て、連勝勝たざるはなき成績を以て終始し得たるは獨り吾人選手の努力のみに非ず、校友諸兄が陰に陽に我が遠征の爲めに御盡力下されし處蓋し大なりとなす茲に一々芳名を列記し感謝を表するは吾人の本意なれど、遺憾乍ら、充分なる餘白を有せず、終焉乍ら一言を呈し以て、感謝の辭となすと云爾。

以上のような戦績を残し、軟式の全盛時代であつた大正初期であつたが、大正九年に東京の有名大学は、殆ん

ど硬式を採用したため、わが農大も一年遅れ大正十年に硬式採用に踏み切つた。